三ツ峠山・大幡川四十八滝沢　2016/10/15

メンバー：落合（ＣＬ・記録），飯野（ＳＬ），平川

天候：快晴

宝鉱山 7：30　北口登山口 8：00　三ツ峠山 11：40　四季楽園 12：50　宝鉱山 15：20

10 月も中旬に差し掛かると沢登りはそろそろフェードアウトしてもいい頃だが、渓が最も美しい時期である秋は選択肢も多く枚挙に暇がない贅沢な季節でもある。

三ツ峠山は屏風岩がお馴染みだが、四十八滝というだけあって滝が多く沢登り・アイスいずれでも遡行可能であり、前から少し気になっていたルートである。

前夜は関越道の渋滞にハマりながら、現地に深夜 1 時頃到着。軽く飲んで酒が足りなかったと猛省し、数時間仮眠。朝の気温は放射冷却相まって 5℃程度。

「サミ～、マジか～、、こんな寒いのに俺達いつまで沢登りなんてしてんだよ！？」と思いながら、二度寝を繰り返し渋々起床。

登山口の宝鉱山はバスの旋回場所にもなっているのでかなり広いが、北口登山道からわざわざ歩く人は少なく我々しかいない。ちょうど駐車場からピークの尖峰と四十八滝沢の全景が一望出来る。

林道はダートで軽トラ・ジムニークラスの 4ＷＤ以外は止めておいたほうがいいくらいダートな部分が一部ある。

いきなり入渓では冷水浴びて低体温になりそうなので北口登山道までの林道アプローチでむしろ身体が温まってちょうどいい。

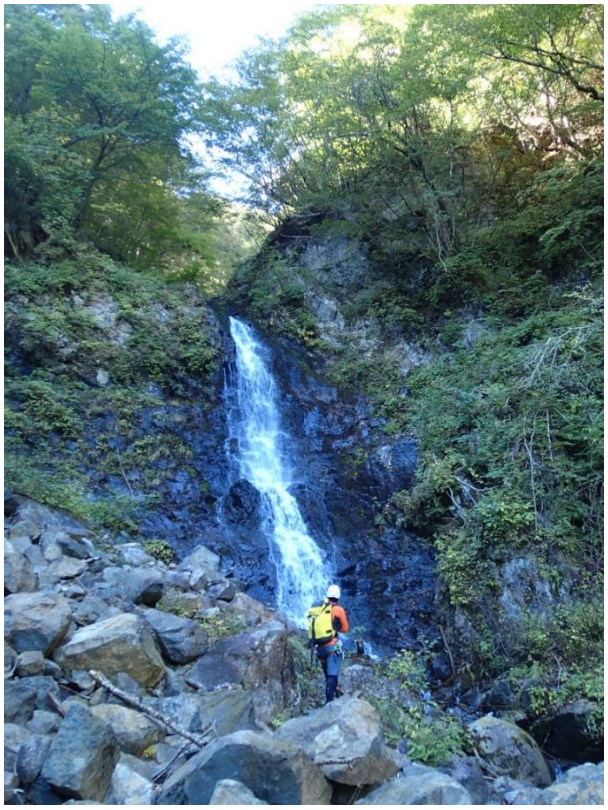
入渓は登山道が横断したところから始まるが、足の揃ったパーティーなら手前の初滝から登ってみると面白いかも。（チョッと渋そうな部分もあるけど）

出だしはいきなりプチ・シャワーを浴びながらの登りになるが、入渓早々平川君の心が折れる。。

落合、飯野はそつなく登るが、水が湧き水のせいか氷水のように滅茶苦茶冷たい。どうやら平川君はいきなりシャワーを浴びて身体が硬直してしまったらしい。

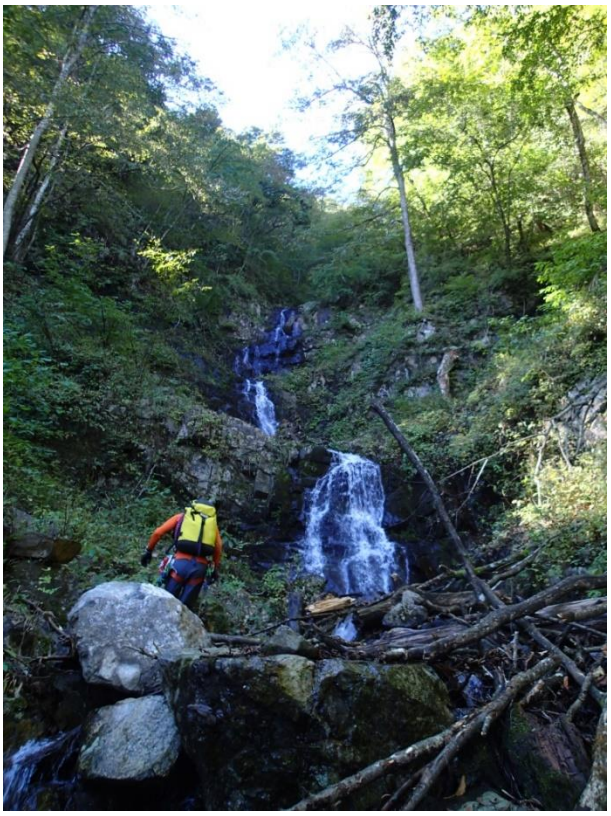
上でお助け紐を出しながら、二人見下ろす視線は冷たかった。。

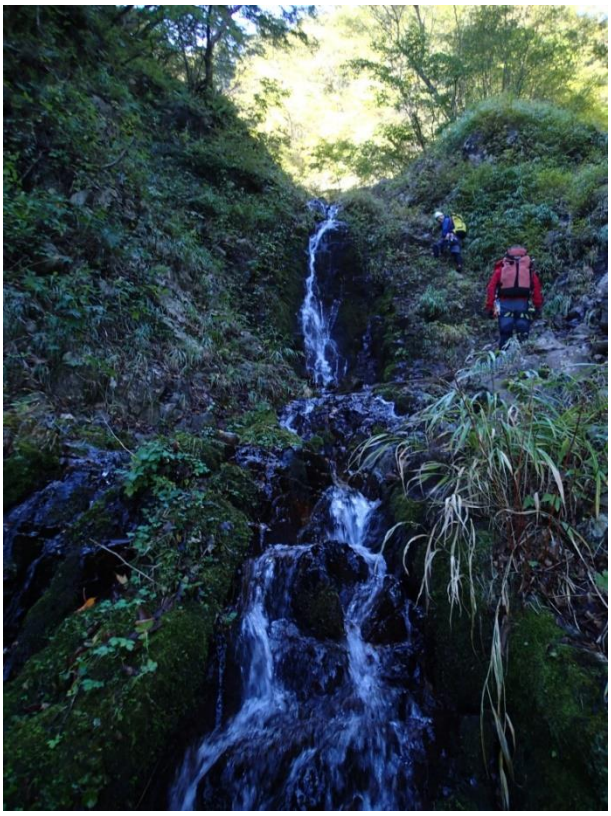
自虐ネタで渓嶺一メンタルが弱いと自負していたが、開始 5 分で折れるのは早すぎだろ！とツッコミ入れながら気合を入れ直す。確かに寒かったよ、でも''強くなりたい人''はどこまで強くなれるかが永遠の課題である。。

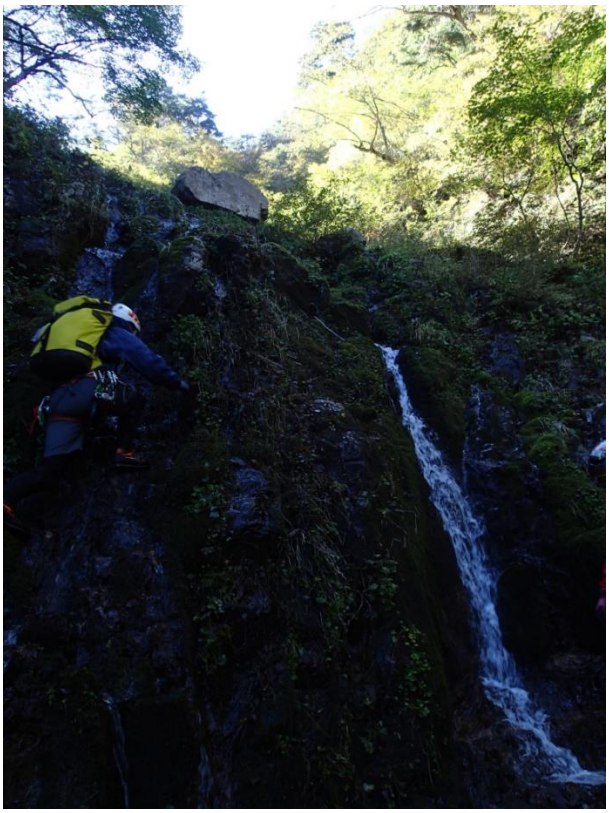


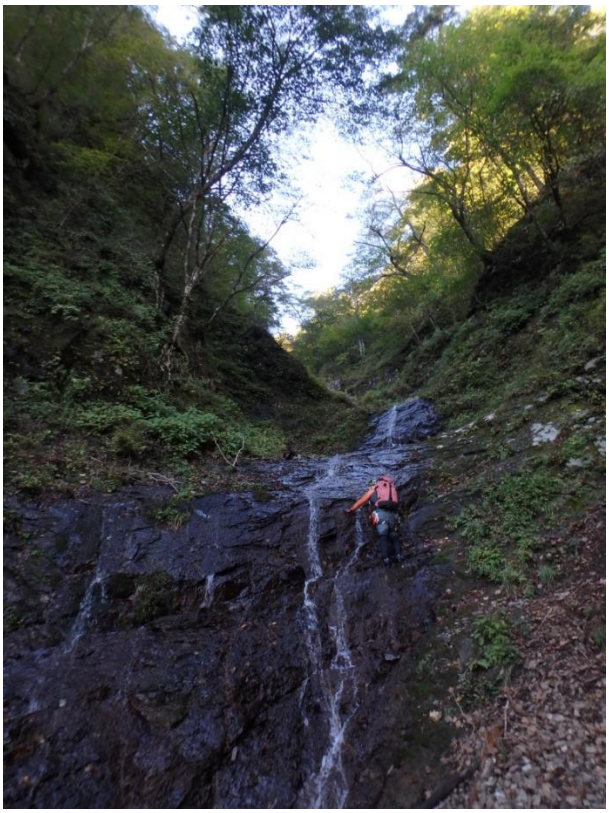
ルート上さして難しい箇所は無いが、大滝を含め沢の名前の通り滝が連続して飽きさせない。標高差は 850m 程度あるがゴーロが全くといって無いので滝登りに徹するのみだ。

沢は北東斜面なので日が当たらなく寒い、途中寒くてお日様が当たる尾根際に這い上がりアース・パワーをもらう始末である。水量はさして多くないが、これだけ水が冷たいなら夏に積極的にシャワー・クライミングで登ればさぞかし気持ちいいことだろう。









夢中になって登っているとアッという間に遡行終了、源流の泉は非常に冷たい湧き水で超軟水。

最後はチョッと物足りないので、尾根に上がらず源頭まで沢地形を拾ってルンゼをツメ上がった。

時間もタップリあるのでハイカーで塗れた三ツ峠山山頂に足を延ばし、ここでもアウェーの洗礼を浴びるも最近当たり前になってきたので気にしない。

四季楽園のテラスで大休止をしながら、屏風岩、富士山～南アルプスの眺望を楽しみ、御坂山地からみる富士山は雄大だ。たまにはこんな山小屋で紅富士でも眺めながらのんびり宴会山行もいいかもしれない。（宴会しかしてないと言われそうだが。。）

三ツ峠山山頂から望む富士山

屏風岩でクライミングしている人達は日当たり抜群で快適なクライミング日和だったが、我々は一日日陰の沢でヒモジい思いをして体感 10℃くらい違ったのでは！？

そんな事を羨むことなくそれはそれで楽しい沢登り、反骨精神は益々増すばかりだ。

帰りは食事の選択に乏しい都留市で夕飯を食べて、間髪いれずに中央道・藤野ＰＡでモスって（山の帰りのモスは美味い！）心身共に満たされて帰路に着いた。